

で、厚さ一・五厘位のものがよい。一人一枚ずつ用意するのが望ましい。

○第五回分科会 幼稚園と小学校との連

指導者

文部省初等・特殊教育課長 上野芳太郎
文部省助成課 菅野誠、名古屋大学教授
重松騰泰、愛知県教育委員会 山下敏夫、
名古屋市教育委員会 福田金光

(1) 連けいのための組織と機会

公立併設の場合——校長が兼任で研修や行事等互いに連けいしやすい。ただし俵給源が違うので融和しにくい面もある。独立の場合——併設に比べてしにくいのが授業参観、カリキュラム交換等ができ、また幼小等の合同研究会を持つとか就学前に小学校参観等の方法で連けいとれる場合もある。私立の場合——小学校とのギャップが大きくまご扱ひされやすい。

(2) 指導内容

文字、数の指導について父兄の要望も多いが、あくまで文字でなくことばによる指導を本体とする。せいぜい数は一〇まで数えられ、文字は自分の名前が読み書きできる程度でよい。指導時間は就学は近づくにしたがって小学校の授業時間に接近させる。

(3) 施設面

小、中学校より幼稚園の方が研究されている。創意工夫によって幼稚園と小学校の低学年を連関させて考え改善したい。併設では幼稚園、初等部などに分けて運動場、運動具など設け、自然の地形を利用するこ

広島大学幼年教育研究会の誕生と事業

莊 司 雅 子

就学前の教育の重要性が一般に認識されるようになってから保育所や幼稚園の数が次第にふえてきた。最近の増加率は実に明治九年わが国に最初の幼稚園がいまのお茶の水女子大学に設立されて以来の最高水準を示している。したがって小学校への就学児童なども県や市によっては、その百パーセントまたはそれに近いほどの児童が、保育所もしくは幼稚園を出ている。ただこのように幼児教育機関の数が急速に増加したものの、幼児教育の内容や方法や設備、その他保育者の養成や制度などの諸点においては、いずれもまだ多くの問題が残されている。そのために真の幼児教育のあり方がゆがめられて好ましくない結果をあらわしているものが少くない。そればかりではな

とを根底として人工的な工夫を加えるのがよい。運動場使用の場合、幼、小いっしょに使うときは問題は大きく今後研究の必要がある。

くて、保育所や幼稚園をでた子どもが小学校でやっかいものあつかいにされる場合もある。また小学校低学年の教師が、保育所や幼稚園のほんとうのあり方に対する理解が欠けているために、せっかく保育所や幼稚園で正しい保育を受けてきた子どもを、寛大な心で受け入れることができない場合も見られる。保育所や幼稚園で真の保育をしていけば、当然小学校側が歓迎すべきである。もしそうでない場合があるとするれば、それは保育所や幼稚園が真の保育をしていない場合であるが、それとも小学校側が幼児教育に対する理解に欠けている場合であるか、どちらかであると思う。

以上のような諸点から近年幼少教育の一貫性がとえられている。すでに広島市教

育委員会をはじめ、全国のところどころでこのような幼少一貫教育に関する協議会を結成し、現場の問題解決に取り組んでいる。ただ現場の問題の解決は理論的な裏づけを必要とすることはもちろんであるが、その理論的な研究は必然に研究機関をもたなければならぬ。広島大学幼年教育研究会は、正にこのような要望に応えたために生まれてきたものである。したがって本研究会は絶えず現場の協議会と提携し相呼応しつつ、研究母体としての性格を發揮せんとするものである。具体的な研究問題としては小学校低学年までの幼年期の成長発達と教育のあり方、とくに保育所・幼稚園と小学校低学年との間の教育内容や教育方法の一貫性に関する問題である。ただわれわれの主張するこの一貫性というのは、現行の小学校に教育の立場立って保育所や幼稚園の教育を考えるのではなくて、むしろ保育所や幼稚園の正しい教育を小学校の低学年がそれを踏襲しつつ発展していく立場に立つ教育をさすものである。そのため幼少の教育内容や方法や施設や制度などについての理論的な研究が、本研究会の主題となるであろう。幸いに諸兄弟姉のご賛同と協力とを得、本会の趣旨が徹底され研究の

成果をあげ、もってわが国の幼年教育に貢献できれば誠に同慶にたえないと思う。以上述べたような趣旨のもとに、昨年昭和三十一年六月十三日にまず研究会のちちで発足した。当日の様子は以下の記録の通りである。

幼年教育研究会は、去る六月二十三日午後一時半より広島大学教育学部大講義室において、保育所・幼稚園・小学校その他幼年教育に関係ある方々や関心をもっておられる方々その他母親など、約六百人が集って、研究発表を皮切りに開かれました。

まず教育学生主任佐藤清太教授の挨拶があり、ひきつづき第一回研究発表が佐藤正夫助教の司会のもとに行われました。発表者およびその題目は次の通りでした。

1. 最近の新入児童の特色
安田小学校 住田ノブヨ氏
2. ソ連の幼児教育について
広島大学 仲原 豊氏
3. 幼児の言語教育
広島大学 頼 桃三郎氏

研究発表につづいて、「幼少教育の一貫性について」と題するシンポジウムが荘司の司会で、七名の方々がそれぞれの立場か

ら提案され、会員との間に活発な討議がかわされました。

当日提案された方々は次にあげる先生方でした。

- 池 田 勝 人氏 (広島助教)
- 小 林 利 寛氏 (広島女子短大助教)
- 内 藤 時 光氏 (広島県教委指導主事)
- 樋 口 正 司氏 (広島市教委指導主事)
- 新 田 哲 正氏 (智恵保育園長)
- 月 下 儀 平氏 (的場幼稚園長)
- 中 野 繁 美氏 (観音小学校長)

このあと、ただちに幼年教育研究会発会式が行われ、議長に佐藤清太教授を推薦、まず会則の審議にひきつづき、会長に菅副会長池田勝人助教、顧問に長田新名教授、皇教育学部長がそれぞれ満場一致で推薦された。その他、理事や幹事が佐藤名議長のあざやかな議事さばきによって、あいついで決定されました。荘司会長、長田顧問の就任挨拶、杉谷雅文教授の閉会の辞を最後に、きわめて盛会のうちに第一回研究会の幕を閉じました。

本会今後の行事計画 公開講座開設と出版事業

(一) 幼年教育公開講座

本研究会は定期の行事として幼年教育に
関する四季講座を公開することになった。
会員の方々はもちろん、一般の方々の参加
も歓迎している。

第一回講座(冬)これは十二月七日(金)
午後一時半から四時半、広大教育学部講堂
で開講された。

内容 一、中国の古典に見えた幼年教育

広大教授 佐藤 清太氏
二、幼年期の成長発達と教育

広大教官 田代 高英氏
三、教育映画

広大教育学部聴視覚教育研究会、広島県
教育委員会聴視覚ライブラリーの提供。

第二回講座(春)五月中旬の予定

一、幼年期の宗教道徳教育

広大名教授 長 田 新氏

二、現地に見るアメリカの幼年教育

聖和女子短期大学保育科長 山川 道子氏

三、幻燈

四、フレール祭

第三回講座(夏)八月下旬の予定(本会の
総会をかねて行う)

一、聴視覚教育講習

講師 広島大学教育学部長 皇 至道氏
国際キリスト教大学教授 西本三十二氏

第四回講座(秋)十一月下旬の予定

一、幼年期のカリキュラムについて(実
地授業をかねて)

講師 広島大学教育学部 頼 桃三郎氏
三原分校附属学校主事 外教官

広大助教授 池田 勝人氏

長野県山内小学校 和田 清氏

徳島大学附属幼稚園 岩佐 崇子氏

(二) 出版計画

A、PTA新書

コロンビヤ大学ティーチャスカレッジ
編 広島大学幼年教育研究会訳

この双書はコロンビヤ大学のティーチャ
スカレッジが、それぞれの専門の教授陣を
動員して執筆し、同大学の出版部から出版
されたものである。かつて荘司が渡米した
際に見つけ、それを買って帰ったものであ
る。

1. 幼年の理解

(Understanding Young Children)

2. 楽しい読書

(Reading is Fun)

3. 子どもの質問の答え方

(Answering Children's Questions)

4. 良い両親になるには

(Being a Good Parent)

5. 子どものしつけ方

(Discipline)

6. 放課後の子ども

(Your Child's Leisure Time)

7. 子どもと家族

(Getting along in the Family)

8. 家庭のなかでの子ども

(Children in the Family)

9. 子どもの行動の理解

(Understanding Children Behavior)

10. 楽しい学校

(A Good School Day)

B、幼年教育の手引

広大教育学部幼年教育研究会発行

1. 幼年期の成長発達と教育

2. 二才児の楽しい一日

3. 三才児の楽しい一日

4. 四才児の楽しい一日

5. 五才児の楽しい一日

6. 六才児の楽しい一日

7. 七才児の楽しい一日

以上出版計画はいずれも予定で未だ刊行
されていない。最後に本会の会則は次の通
りである。

一、本会は広島大学幼年教育研究会と称
し、事務所を広島大学教育学研究室にお

- きます。
- 二、本会は幼年期の教育を研究し、教育実践の向上を計ることを目的とします。
 - 三、本会は次の事業を行います。
 - (一) 研究会の開催
 - (二) 講演会および講習会の開催
 - (三) 研究物の刊行
 - (四) 四諸外国の幼年教育機関との連絡、研究物の交換
 - (五) その他本会の目的を達成するに必要な事項
 - 四、本会の目的に賛同する幼年教育の研究者、担当者および幼年教育に関心のあるものを本会の会員とします。
 - 五、本会は顧問をおくことができます。
 - 六、本会には会長一名、副会長一名、理事若干名および幹事若干名をおき、本会の運営にあたります。
 - 七、本会の経費は会費、寄附金その他をもってこれにあてます。
 - 八、会費は正会員年額一〇〇円、賛助会員年額三〇〇円を納めるものであります。
 - 九、会員は本会の事業に参加し、本会の刊行物を実費で受けることができます。
 - 十、本会は毎年一回以上総会を開き、会則の改正変更などを議決します。

大会研究会案内

○第十回日本保育学会大会

* 期日 五月二十五日(土)～二十六日(日)

* 会場 日本女子大学講堂

東京都文京区高田豊川町十八

八

(国電 目白駅からバス日
本女子大学前下車)

(都電 護国寺または早稲
田下車徒歩約七分)

* プログラム

二十五日(土)午後一時半～五時 研究発表

二十六日(日)午前九時～十二時 研究発表

二十六日(日)午後一時～四時 研究発表

二十六日(日)午後一時～四時

(1) 共同研究(わが国における幼児教育史)

(2) シンポジウム(保育者養成の諸問題)

養成の諸問題)

(3) 講演(保育十か年を顧みて 山下俊郎先生 他)

* 大会参加申し込み

大会参加者は、五月十日までに、プリント代百円を同封して、日本女子大学内保育学会大会準備委員会までお送り下さい。会場の都合で、申込者が非常にたくさんになった場合は、正会員でない方は、参加をお断りするかもしれません。正会員はもちろん参加できますが一応お申し込み下さい。

○お茶の水女子大学付属幼稚園実際指導研究会

昭和三十二年度実際指導研究会開催要項は左の通り。

* 主題 教育計画の実際

* 期日 六月一日(土)二日(日)三日(月)

* 場所 〓お茶の水女子大学

東京都文京区大塚町三五

(都電大塚駅下車)